

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2017年28週 (7月2週 7/10~7/16)

2017年6月報

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、夏休みの海外渡航者に対する感染症予防啓発、ダニ媒介感染症に係る注意喚起、日本におけるオウム病症例発生状況と妊娠女性におけるオウム病

病原体検出情報

定点医療機関コメント

手足口病、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌感染症、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(33)、細菌性赤痢(1)、腸管出血性大腸菌感染症(1)、E型肝炎(1)、デング熱(1)、レジオネラ症(3)、アメーバ赤痢(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(1)、急性脳炎(2)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)、後天性免疫不全症候群(2)、侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)、侵襲性肺炎球菌感染症(2)、梅毒(19)、播種性クリプトコックス症(1)

2017年6月報

定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

手足口病 (図1)【7月13日警報発令】

28週の定点当たり報告数は7.29、27週918人 28週1,327人(1.45倍)です。2017年に搬入され検査が終了した12検体より、CV(コクサッキーウイルス)-A6型が3件、CV-A16型・EV(エンテロウイルス)-71型が各1件検出されています。

【参考ページ】手足口病警報を発令します!!(7月13日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenkotaisaku/0000016940.html>

疾患別ウイルス検出状況(速報)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

豊橋市: 手足口病が流行しています(6月26日発表)

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/item/50919.htm>

<注目すべき感染症> 手足口病 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/hfmd-m/hfmd-idwrc/7351-idwrc-1723.html>

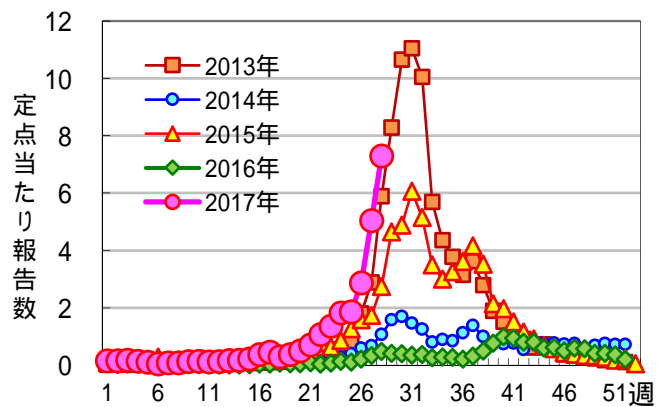


図1 手足口病

ヘルパンギーナ (図2)

28週の定点当たり報告数は1.35、27週164人 28週245人(1.49倍)です。

咽頭結膜熱

28週の定点当たり報告数は0.59、27週110人 28週107人(0.97倍)です。27週の全国の定点当たり報告数は0.93です。

【参考ページ】咽頭結膜熱とは (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/adeno-pfc.html>

過去10年間との比較グラフ(週報)-咽頭結膜熱(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/2096-weeklygraph/1645-02pcf.html>

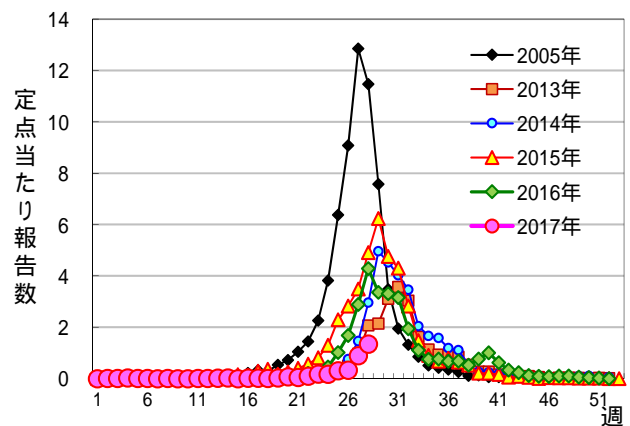


図2 ヘルパンギーナ

夏休みの海外渡航者に対する感染症予防啓発について

【参考ページ】夏休みにおける海外での感染症予防について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html

ダニ媒介感染症に係る注意喚起について

北海道において国内3例目となるダニ媒介脳炎患者の発生が確認されました。

【参考ページ】ダニ媒介感染症に係る注意喚起について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000170917.pdf>

ダニ媒介脳炎について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000133077.html>

日本におけるオウム病症例発生状況と妊娠女性におけるオウム病について

【参考ページ】日本におけるオウム病症例発生状況と妊娠女性におけるオウム病について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000170725.pdf>

病原体検出情報 2017年疾患別ウイルス検出速報 (2017年7月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	インフルエンザ	* * 麻しん・風しん
								2016/2017 シーズン	
患者数	143	40	6	16	1	2	12	598	4(6)
CV-A6	-	3	1	-	-	-	-	-	-
CV-A10	-	-	-	-	-	-	-	1	-
CV-A16	-	1	-	-	-	-	-	-	-
EV-71	-	1	-	-	-	-	-	-	-
E-6	1	-	-	-	-	-	-	1	-
E-7	1	-	-	-	-	-	-	-	-
HRV	-	-	-	-	-	-	-	2	-
FluAH1pdm09	-	-	-	-	-	-	-	13	-
FluAH3	-	-	-	-	-	-	-	420	-
FluB(Vic)	-	-	-	-	-	-	-	40	-
FluB(山形)	-	-	-	-	-	-	-	26	-
HMPV	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Rota A G1	6	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	6	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G3	21	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G8	13	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G9	3	-	-	-	-	-	-	-	-
NV GII	29	-	-	-	-	-	-	-	-
SV	4	-	-	-	-	-	-	-	-
AstV	11	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	1	-	-	2	-	-	-	1	-
Ad-2	5	-	-	3	-	-	-	1	-
Ad-3	-	1	-	2	-	-	-	1	-
Ad-5	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Ad-6	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Ad-41	6	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-54	-	-	-	1	-	-	-	-	-
検査中	20	28	4	5	0	0	3	2	0(1)
陰性	28	6	1	1	1	2	9	90	4(5)

*インフルエンザは2016/2017シーズン(2016年9月~)の結果

**麻しん・風しんの()内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略:ウイルス名

Ad: アデノウイルス、AstV: アストロウイルス、CV: コクサッキーウイルス(Cox.)、E: エコーウイルス、
 EV: エンテロウイルス、FluAH1pdm09: インフルエンザウイルスAH1pdm2009、FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、
 FluB(Vic): B型インフルエンザウイルス(ビクトリア系統)、FluB(山形): 同(山形系統)、HMPV: ヒトメタニューモウイルス、
 HRV: ヒトライノウイルス、NV: ノロウイルス、Rota A: ロタウイルスA、SV: サポウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

手足口病増加しています。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
手足口病多し、ヘルパンギーナも皮疹の強いもの多い。
アデノ感染症も5例
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
溶連菌 41名、手足口病 24名、アデノ 7名。
おたふく 1名、発症後数Hで髄膜炎に。
【扶桑町 医療法人 tsukushi つくしこどもクリニック】

サルモネラ腸炎 5歳女 1名
【北名古屋市 田中クリニック】
24歳男 カンピロバクター
47歳女 カンピロバクター
5歳男 病原大腸菌O1
手足口病、ヘルパンギーナ、ムンプス、アデノも見られます。
【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

手足口病、ヘルパンギーナ流行続いています。
水痘(5歳女)ワクチン接種歴1回4年前
その他溶連菌、突発疹等
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
手足口病が目立ちます。
【日進市 みやがわクリニック】
インフルエンザ陽性報告なし
手足口病が多いです。
RSV感染も多いです。
【春日井市 春日井市民病院】
溶連菌、手足口病、ヘルパンギーナ多数
14歳女 カンピロバクター腸炎
【春日井市 朝宮こどもクリニック】

RS感染、溶連菌感染症が増加しました。
【小牧市 志水こどもクリニック】
手足口病、感染性胃腸炎散発
【南知多町 医療法人大岩医院】
手足口病が増えてきました。
【半田市 ひいらぎこどもクリニック】
7歳女 マイコプラズマ
手足口病が増えてきました。
【大府市 まえはらこどもクリニック】
手足口病多いです。
アデノウイルス感染症 3名
ノロウイルス胃腸炎 1名
【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

StrepA陽性 2名
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
アデノウイルス(咽頭) 女6歳 4歳 3歳
病原性大腸菌O6(+) 男2歳
手足口病は急増です。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
手足口病の罹患児が増えています。
感染性腸炎も多いです。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

手足口病、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症目立ちます。
【碧南市 永井小児クリニック】
アデノウイルス感染症 3歳男、3歳男
【幸田町 とみた小児科】
病原性大腸菌O25 21歳女
【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

手足口病流行中
2歳男 カンピロバクター腸炎
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

アデノウイルス 3名
カンピロバクター 3名
【蒲郡市 畑川クリニック】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2017年7月19日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki jun161121.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2017年28週報告数			2017年総計(1～28週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者数再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者数再掲
名古屋市(16保健所合計)	14	4	2	306	68	73
豊田市				30	8	7
豊橋市	2		1	38	6	13
岡崎市	2	2		25	10	6
一宮	2		1	62	22	24
瀬戸	2			57	5	19
半田	2		1	35	6	14
春日井	3	1		69	14	24
豊川	2	1		26	11	2
津島	1		1	47	7	10
西尾				15	7	2
江南	2			24	8	4
新城				2	1	
知多				30	12	9
清須				15	7	1
衣浦東部	1			47	9	17
合計	33	8	6	828	201	225

細菌性赤痢（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	岡崎市	7歳	女	7/9	7/9	7/13	国内

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	16歳	女	-/-	7/5	7/11	O91、VT1(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

E型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	名古屋市	42歳	男	国内

デング熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	知多	22歳	女	デング熱	スリランカ

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	68歳	男	肺炎型	国内
2	名古屋市	50歳	男	肺炎型	国内
3	瀬戸	66歳	男	肺炎型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	豊田市	60歳	男	腸管アメーバ症	不明	タイ

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域	90日以内の海外渡航歴
1	知多	12歳	男	医療器具関連感染	国内	無

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	瀬戸	4歳	男	<i>Enterococcus faecalis</i>	国内
2	瀬戸	3歳	男	病原体不明	国内

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	名古屋市	45歳	女	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	60歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
2	名古屋市	47歳	男	AIDS	性的接触	国内

侵襲性インフルエンザ菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	津島	81歳	女	不明	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	0歳	女	有	国内
2	西尾	94歳	男	不明	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	26歳	女	無症候	性的接触	国内
2	名古屋市	18歳	女	無症候	性的接触	国内
3	名古屋市	33歳	男	無症候	性的接触	国内
4	名古屋市	35歳	男	無症候	性的接触	国内
5	名古屋市	57歳	男	無症候	性的接触	国内
6	名古屋市	59歳	男	早期顕症	性的接触	国内
7	名古屋市	38歳	男	早期顕症	性的接触	国内
8	名古屋市	41歳	男	早期顕症	性的接触	国内
9	名古屋市	45歳	女	早期顕症	性的接触	国内
10	名古屋市	44歳	男	早期顕症	性的接触	国内
11	名古屋市	51歳	男	無症候	性的接触	国内
12	名古屋市	59歳	男	早期顕症	性的接触	国内
13	豊田市	25歳	男	早期顕症	性的接触	国内
14	豊田市	34歳	女	早期顕症	性的接触	国内
15	豊橋市	45歳	男	早期顕症	性的接触	国内
16	半田	46歳	男	早期顕症	性的接触	国内
17	半田	20歳	男	早期顕症	性的接触	国内
18	西尾	25歳	男	早期顕症	性的接触	国内
19	西尾	35歳	男	早期顕症	性的接触	国内

播種性クリプトコックス症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染原因・感染経路	推定感染地域
1	岡崎市	91歳	女	その他	国内

6月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [()は無症状病原体保有者再掲]

2016～2017年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数		2017年6月			2017年	2016年
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (7)	結核	95 (25)	37 (10)	132 (35)	755 (205)	1,740 (444)
三類 (5)	コレラ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	細菌性赤痢	1 (0)	4 (0)	5 (0)	9 (0)	9 (2)
	腸管出血性大腸菌感染症	6 (2)	4 (0)	10 (2)	49 (15)	160 (53)
	腸チフス	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	12 (2)
四類 (44)	E型肝炎	0	0	0	3	5
	A型肝炎	0	0	0	4	5
	オウム病	1	0	1	2	1
	ジカウイルス感染症*	0	0	0	0	2
	チクングニア熱	0	0	0	0	3
	つつが虫病	0	0	0	0	3
	デング熱	1	0	1	3	20
	日本紅斑熱	0	0	0	0	1
	ブルセラ症	0	0	0	1	0
	マラリア	0	0	0	1	1
	レジオネラ症	8	3	11	43	97
五類 (22)	アメーバ赤痢	2	2	4	29	68
	ウイルス性肝炎	0	0	0	1	5
	内訳 B型	0	0	0	1	4
	内訳 その他	0	0	0	0	1
	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症	5	2	7	44	76
	急性脳炎	2	4	6	24	39
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	1	5	13
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	4	22	26
	後天性免疫不全症候群	3	3	6	34	99
	内訳 無症候性キャリア	1	3	4	17	64
	内訳 AIDS	1	0	1	14	32
	内訳 その他	1	0	1	3	3
	ジアルジア症	0	0	0	0	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	0	1	17	25
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	2	6
	侵襲性肺炎球菌感染症	10	4	14	133	156
	水痘(入院例に限る。)	4	0	4	8	14
	梅毒	17	22	39	148	259
	内訳 無症候	3	8	11	42	69
	内訳 早期顕症	14	13	27	99	181
	内訳 晩期顕症	0	1	1	6	9
	内訳 先天梅毒	0	0	0	1	0
	播種性クリプトコックス症	2	0	2	7	11
	破傷風	2	0	2	3	5
	風しん	0	0	0	0	20
	麻しん	0	0	0	1	5
	薬剤耐性 アシネトバクター感染症	0	0	0	0	2
	総計	163	88	251	1,349	2,890

* 2016年2月15日に「ジカウイルス感染症」が四類感染症に追加されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名		2017年6月			2017年 累計		2016年 総計	
			愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県全体		愛知県全体	
						合計	合計		
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	男	24	47	71	415	733	905	1,555
		女	25	17	42	318		650	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	13	8	21	116	280	231	633
		女	14	10	24	164		402	
	尖圭コンジローマ	男	7	11	18	98	148	207	313
		女	7	2	9	50		106	
淋菌感染症	男	13	29	42	212	242	483	554	
	女	3	2	5	30		71		
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		61	11	72	507		957	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		11	0	11	70		102	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	1		0	

感染症の類型及び定義(感染症法)

2016年11月21日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症* (44疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスのよるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

* 2016年2月15日に「ジカウイルス感染症」が四類感染症に追加されました。

グラフ総覧

2017年28週(7月10日～7月16日)

愛知県(名古屋市データ含む)の1999年13週から2017年28週までの定点当たり報告数のうち、
本年を含む過去5年間及び特徴的に推移した年についてグラフ化したものです。

*各疾病のグラフを個別に利用される場合は、衛生研究所ウェブサイトからExcelファイルをダウンロードしてください。
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.zip> *ExcelファイルはZIP圧縮してありますので適当な場所に解凍後ご利用ください。

